

iPad を使った体育科授業実践報告書

指導者 金沢市立三馬小学校

5年 小原 一輝

1 単 元 「めざせ金メダル！三馬五輪マット団体戦」（小学校5年体育 器械運動 マット運動）

2 目 標

自分の能力に合った技に取り組み、その技ができるための課題を見ついたり、解決の仕方を工夫したりする中で、安全に気を配って運動するとともに、仲間と関わり合いながら技に取り組む楽しさを味わうことができる。

3 iPad を活用するねらい

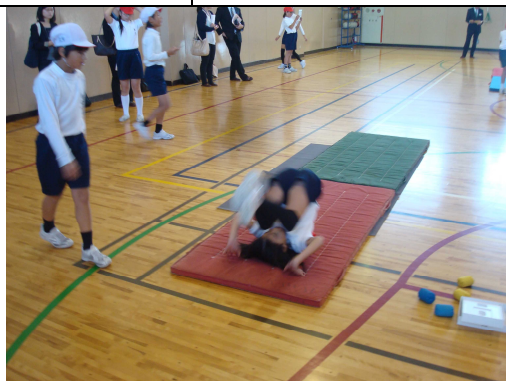
本単元における iPad を活用するねらいは、以下の二つであった。

- ① 自分の技を撮影して自分で見ることによって、自分の技のイメージと実際の動きの違いに気付く、よりよい動きを身につけていくこと。
- ② 自らの運動や友達の運動を観察・評価する活動を通して、そこで感じたこと、考えたことを表現したり友達と交流したりするグループでの学び合い活動を活発にすること。

4 単元計画 （総時数 9時間）

次	主 な 学 習 の 流 れ	指 導 と 評 価
第一次 オリエンテーション (1時間)	〈みんなが安全に楽しめる学習テーマを決めよう〉 マット団体戦はみんなが楽しめそうだな。安全に気を付けて、団体戦で金メダルが取れるように、友達と力を合わせてがんばろう。 《グループで協力してマット団体戦で金メダルをめざそう》	関 安全に気を配って運動したり、用具の準備をしたりしている。 (行動観察) ・何に苦手意識があるのかはつきりさせ、それをみんなで解決していく学習にすることを話して意欲を持たせる。
第二次 発表会に向けて練習しよう (6時間)	〈後転系の技を身につけるのに大切なことは何か〉 後転は体を丸めて回転することや、着手したときにマットを押す動きが大切だと分かったよ。 体を丸めて回転するために坂マットで練習したり、着手の違いを見つけるためにタブレットを使ったり出来たよ。	思 後転系の技のポイントを知り、自分の課題に合った場を選んだり、できている人との違いを見つけたりしている。 (発言・ワークシート) ・つまづいているポイントを指示し、技に取り組む場を選ばせる。
	〈後転系の技で自分の技の課題を解決するにはどうすればいいか〉 友達と自分の動きの違いを見つけて、首倒立から立つ練習をしたら、開脚後転がスムーズに出来るようになったよ。団体戦で開脚後転を使えそうだな。	思 自分が取り組む技の課題解決のために課題に応じた練習の場や練習方法を選んでいる。 (行動・ワークシート) ・課題と課題解決の方法が示されたカードを与える。
	〈前転系の技を身につけるのに大切なことは何か〉 前転は後頭部、肩、背中順に体を着けること、着地前にかかとを体にひきつけること、手を前に振り込むことが大切だと分かったよ。頭のとっぺんがマットについて、まっすぐ回れないな。開脚前転で立つときに、膝が曲がってしまうよ。	思 前転系の技のポイントを知り、自分の課題に合った場を選んだり、できている人との違いを見つけたりしている。 (発言・ワークシート) ・つまづいているポイントを指示し、技に取り組む場を選ばせる。

第三次 マット団体戦をしよう（2時間）	本時 4 / 6		
	〈倒立系の技を身につけるのに大切なことは何か〉 補助倒立は体をしめる感じと、手と視線の場所が大切だと分かったよ。太ももに力を入れると膝が伸びるね。腕立て横跳び越しは手と足の着く順番をタブレットで撮影して比べたよ。まずは、V字マットでやってみよう。	思 倒立系の技のポイントを知り、自分の課題に合った場を選んだり、できている人との違いを見つけたりしている。 （発言・ワークシート） ・つまづいているポイントを指示し、技に取り組む場を選ばせる。	
	〈倒立系の技で自分の技の課題を解決するにはどうすればいいか〉 手と足を着く順番を意識して練習したら側転がスムーズに出来るようになってきたよ。太ももに力を入れたら膝を伸ばして補助倒立が出来たよ。	思 自分が取り組む技の課題解決のために課題に応じた練習の場や練習方法を選んでいる。 （行動・ワークシート） ・課題と課題解決の方法が示されたカードを与える。	
	〈マット団体戦に向けて色々な動き方で技をやってみよう〉 今までやってきた技を友達と一緒にスムーズに行うことが出来たよ。交互にやったり、簡単な技でも繰り返したりすると楽しく技をすることが出来たよ。演技の構成も決まってきたよ。	技 基本的な技が安定してできたり、繰り返したり、組み合わせたりしている。 （行動観察） ・技のポイントが書かれたカードを与える。	
	〈グループの良いところを見つけあい、金メダルをめざそう〉 難しい技ができていたのが良かったな。簡単な技でも連続するとカッコよかったよ。みんな楽しそうにしていたな。 グループで力を合わせて練習したり、技ができるようになったりして楽しかったよ。	技 基本的な技が安定してできたり、繰り返したり、組み合わせたりしている。 （行動観察） ・技のポイントが書かれたカードを与える。	



5 本時の学習（第二次中 4時）

（1） 題 目 自分の技の課題を解決するにはどうすればいいか

（2） ねらい 自分の技の課題の解決のために必要な場や練習方法を選ぶことができる。

（3） 学習過程

学 習 活 動	時	主 な 学 習 の 流 れ	指 導 と 評 価
1 場の準備・準備運動をする	5	○準備、準備運動をしよう。 ・ゆりかごは前転や後転につながるね。	・課題をつかませるために、実際の演技を見て、その演技の課題や必要な練習、アドバイスを考えさせる。 ・自分の技の課題が実感できるように動きを見る視点（膝の伸び具合、手をつく位置、手でマットを押すタイミング）を与える。
2 課題を確認する	3	〈前転系の技で自分の技の課題を解決するにはどうすればいいか〉 ・前の時間では前転系の技のポイントやコツが分かったよ。	
3 タブレットで自分の技の課題に気づき、課題の解決のために練習する	30	・どんな場で練習すればポイントをクリアしたりコツを習得できるか分かったよ。 ○自分の技の課題解決のために練習しよう。 ・上手な人と見比べると手を着く位置が体に近すぎるよ。 ・自分が思っているより膝が伸びてなかったよ。 ・坂道マットで勢いをつける練習をするよ。 ・肩倒立から立つ練習をして足を開くタイミングをつかむよ。	
4 ふり返る	7	足のどこを着いているか見比べたら、かかとかから着くとわかったよ。肩倒立から立つ練習や坂マットで練習したら開脚前転で膝を伸ばして開いて立つことができたよ。	

6. 授業後の考察

（1） iPad を用いたことによる成果

・ねらい①に関して

従来通り友達同士で動きを見合うだけでは、自分が本当に技のポイントを押さえて技ができていると言えるのか分からなかった。しかし、本単元では自分自身で技のできばえを確認することで、客観的視点で自分の動きを評価することができた。本単元で扱った技一つ一つのポイントをカードにして示し、そのポイントをクリアできているかを撮った動画で確認した。クリアできていれば別のポイントのクリアをめざし、クリアできていなければそのポイントをクリアするための練習方法や場を選んで練習していた。iPad を用いることによって、技の習得段階においては今の自分の動きより良い動きをめざし、単元を通して意欲的に活動することができた。iPad を用いた学習がマット運動の動きの習得に効果的だったと言えるだろう。

・ねらい②に関して

本単元ではグループに1台 iPad を配付し、自分や友達の技の動画を見ながら動きをもっとい

いものにするためにはどうすればいいのか、自分や友達の課題は何なのか話し合う活動をグループ活動として行った。動画をコマ送りにしたり繰り返し再生したりして一人の技に対してしっかりと評価をすることができていた。また、何度自分の動きを見てもどうすれば自分の動きをよくすることができるのか分からないグループの友達に対して、「膝が曲がってしまっているから伸ばして回れるようになることが課題なんじゃないか」とアドバイスすることができる子が話し合いを引っ張っていく姿が単元が進むにつれて見られるようになっていった。iPad を用いることによって、マット運動の学び合い活動を活発にすることができたと言えるだろう。

(2) 今後の課題

本単元では効果的な技の習得につなげるため、グループ活動を活性化させるために iPad を用いた。iPad を用いることによって児童は単元を通して意欲的に学習に取り組むことができたが、その反面課題も見つかった。

一つ目は iPad を使用する時間が増えることによる、運動量の確保の問題である。体育という教科の目標を達成することを大前提に考えると、児童の運動量は必ず確保されなければならない。本単元においては十分に運動量を確保できたが、児童が iPad の操作自体に夢中になってしまったりすると本来の目的を見失った授業になってしまう恐れがあると感じた。運動を正しく身につけることに夢中にさせるための教師の働きかけが前提として必要であると思う。

二つ目は iPad の操作についてである。今回の実践は小学校 5 年生という発達段階において行われた。動画を撮る、動画を再生する、動画を一時停止したりコマ送りをしたりして自分が見たい瞬間を静止画にして見るなどの操作を、5 年生の児童達はマット運動の技に取り組む、グループで話し合うなどの本来の活動の妨げにならないように行うことができた。iPad の操作自体に興味関心が奪われてしまうような発達段階、学級の実態では iPad を効果的に用いて実践を行うことは難しいと感じた。

三つ目は iPad の機能についてである。今回の実践においては、児童は動画を一つの画面で一再生し、一時停止したりする使い方しかしていない。自分の技の動画とお手本の動画や友達の動画を一つの画面上に並べて再生したり、自分の技をスローモーション再生したりすることができれば、もっと効果的に技の習得を進めることができたと考えられる。体育の学習に適したアプリケーションソフトが開発されれば、それを用いた実践も行ってみたいと思う。

以上が本実践の成果と課題である。

